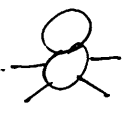



# 大人の話し言葉は子どもの脳の栄養

「言葉による表現力」は、  
 思考力の土台であり、  
 コミュニケーションや、  
 自分の感情の抑制(自制力)  
 などにも関連しています。  
 子どもの豊かな話し言葉を  
 育てる大人の関わりについて  
 まとめました。

子どもは周囲の大人によって  
 異なることばを身につけます。

「ちりちりやば!」  
 「鳥やばくない」  
 「かいいいー」「すごーい」  
 (無言で)くつをはがせる  
 Aちゃん 

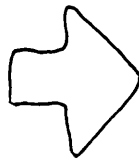
「まいいちりちりやばいね」  
 「空いっばいに鳥いっばいね」  
 「まいいちり色をつけたね。  
 どうやってつけたの?」  
 「さあ、くつをはがそうね。右足を  
 入れて...」  
 Bちゃん 



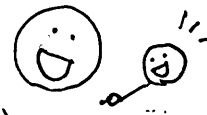
「3000万語の格差 - 赤ちゃんと親と保育者の話しかけ」より  
 S+・サスキント著・掛札逸美訳・明石書店・2017.

## 脳を育てる豊かな言葉の環境だと...

- 注意と体を子どもに向ける。
- 子どもが関心をもっていることについて話をする。
- 子どもと交互に話をする。
- 提案や促しなどが多い。

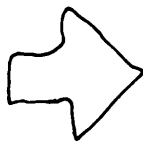


子どもの語彙も豊か、  
 IQが高い  
 学童期の成績も良い  
 自己制御スキルが高い

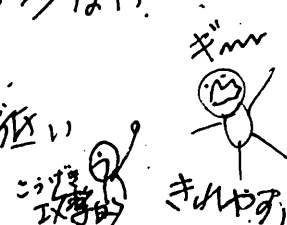


## 貧しい言葉の環境だと...

- 応答的ではなく一方的。(テレビも音)
- 命令、叱責、叱責する。
- 量が少ない。
- 語彙(ことばの種類)が少ない。
- 親同士が話さない。



残念な脳システムが  
 つくられる。  
 子どもの語彙が少ない。  
 残念な成績。  
 自己制御スキルが低い



\*「では、具体的にどんな言葉を話せばよいのか？」言葉のリストは、事務室前にあります。自由に。